

## 会津冬の風情～会津の冬スポットをご紹介します～

朝晩の冷え込みが一層厳しくなってきた会津若松です。

一見、吹雪や雪かきなどの印象がある雪国ですが、雪が降り積もった早朝の冬景色は、足あとひとつない一面の銀世界でとても美しく、こういった風景を堪能できるのは雪国ならではの醍醐味です。

今回は、五感で冬を楽しめる雪国会津ならではのイベントやスポットをご紹介します。



### 会津絵ろうそくまつり

今年で15回目を迎えた「会津絵ろうそくまつり」は、平成26年2月7日（金）～8日（土）の2日間にわたり、鶴ヶ城や御薬園そして市内各所で開催されました。

夕暮れ時から、一本一本丁寧に点灯された絵ろうそくは、ゆらりゆらりと柔らかい灯りを放ち、白い雪を橙色に染め、見る人の心を温かく包み込み癒してくれます。

絵ろうそくの小さな灯火は、城下町会津若松に独特な空間をつくり、まるでおとぎ話の世界に引き込まれたようです。

(撮影日 2014/2/7)



### 会津芦ノ牧温泉



会津若松駅から南へ車で約30分のところにある雄大な大自然に囲まれた湯街、会津芦ノ牧温泉があります。

今から千数百年前に、賢僧「行基上人」によって発見されたという伝説があります。

昭和レトロな情緒漂う温泉街に入ってすぐのところ、高さ約3mの「出会いの湯滝」が湯気を立て温泉客を出迎えてくれます。

さらに、奥へ続く道を行くと金精様を祀った子宝神社、金精神社があります。そのすぐ横には湯量たっぷりの足湯があり、手軽に温泉を楽しむことができます。心身ともにリラックスできるスポットです。

夏には温泉街の遊歩道「いちいの小路（いちいの木）」をのんびり歩いて森林浴を楽しむことができます。

周辺観光では江戸時代の町並みを今に残す宿場「大内宿（下郷町）」や、百万年の歳月をかけて、侵食と風化を繰り返し、可食地形の特異例として1943年に国の天然記念物に指定された渓谷「塔のへつり（下郷町）」があります。

(撮影日 2014/1/23)

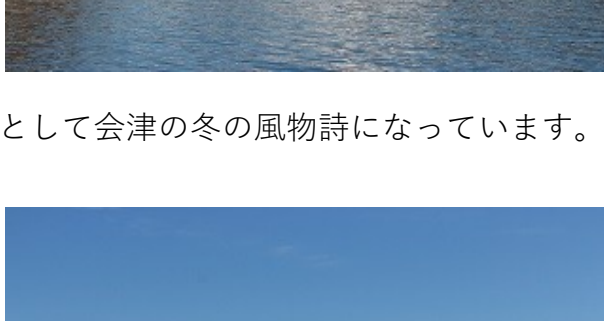
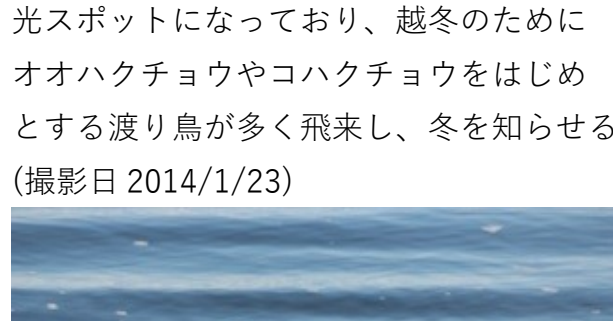
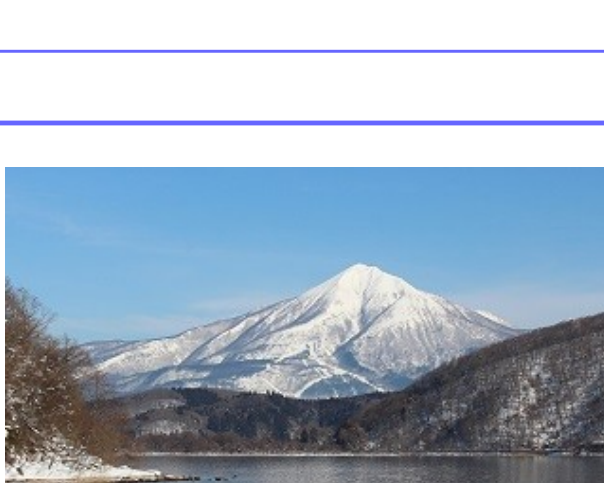


### 猪苗代湖

会津若松市、郡山市、猪苗代町にまたがる日本で第4位の面積をもつ、別名「天鏡湖」と呼ばれている猪苗代湖は、夏はボードセーリングなどのウォータースポーツや湖水浴、キャンプなどを楽しめるレジャースポットになっています。

冬には、家族連れやカップルに人気の観光スポットになっており、越冬のためにオオハクチョウやコハクチョウをはじめとする渡り鳥が多く飛来し、冬を知らせる使者として会津の冬の風物詩になっています。

(撮影日 2014/1/23)



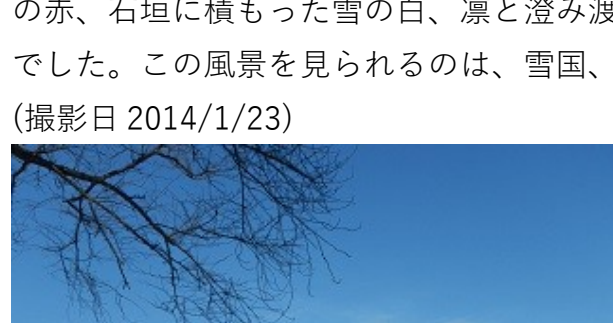
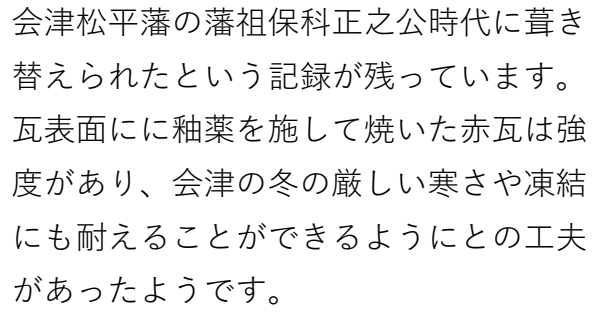
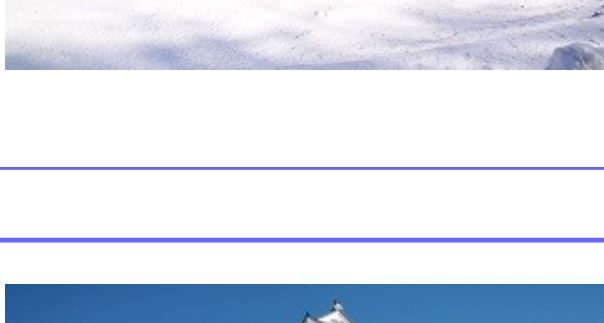
### 鶴ヶ城

平成23年春に幕末時代の赤瓦を再びまとった姿になった名城鶴ヶ城。赤瓦は、会津松平藩の藩祖保科正之公時代に葺き替えられたという記録が残っています。

瓦表面にに釉薬を施して焼いた赤瓦は強度があり、会津の冬の厳しい寒さや凍結にも耐えることができるようにとの工夫があったようです。

この日の撮影は冬晴れで、お城の屋根瓦の赤、石垣に積もった雪の白、凜と澄み渡った冬空の青、その美しいコントラストが絶景でした。この風景を見られるのは、雪国、そして城下町ならではのものです。

(撮影日 2014/1/23)



会津盆地特有の地形は、夏は暑く、冬は寒さが厳しいという大きな寒暖の差をもたらします。その寒暖の差が、四季折々の様々な表情をみせてくれ、私たちの五感を刺激し楽しませてくれます。

自然の美しい景物を指す「雪月花」ということばがありますが、その「雪」には独特の魅力があり、伝統的な日本の美の象徴となっています。会津の人はその雪と共存し「冬の風情」を感じながら長い冬を満喫しています。

冬こそその風情を味わいに会津若松を巡ってみてはいかがでしょうか。

